THE OPEN UNIVERSITY OF JAPAN

大学院博士全科生2026年度
入学希望者ガイダンス

ー社会経営科学プログラムを例としてー

放送大学
新時代

1. 放送大学博士後期課程の特徴

放送大学大学院

①修士と博士とでは、何が異なるのか

- １本目に書く学部「卒業論文」と、２本目に書く「修士論文」と、３本目以降に書く「博士論文」との違い

- 論文のオリジナリティは、修士と博士の両方で求められるが、博士後期課程では、とくに量的・質的に多くを投入し費やすことで表現できるような、質の高いオリジナリティが要求される。

- 博士論文では、査読付き論文を数本使って描かれるような、枠組みの大きな構成とテーマが要求される。

放送大学大学院

②博士後期課程でどのような能力が身につくのか（ディプロマ・ポリシー）

- 「専門」知識と同時に高度な「教養」の習得により、T型の(あるいはW型の）探究心が身につく。

- 職場やコミュニティで獲得してきた、指導能力・企画立案能力を、より幅広い学問的「研究能力」と結びつけることができる。

- 行政組織・企業・地域社会・NPO・研究機関などで培われてきた、組織運営能力・コミュニケーション能力に対して、少し距離を保って「批判的思考能力」を養うことができる。

放送大学大学院

③どのような入学希望者に入っていただきたいか（アドミッション・ポリシー）

- 地域社会・企業・公共団体・行政組織・国際機関などで豊かな経験を持ち、幅広い問題提起を行うことができる能力のあること。

- 自らの領域における専門知識を持っていて、なおかつさらに高度な学問への挑戦する心構えがあること。

- 自分の専門を超えて、他の専門領域の教員・学友との議論を進んで行うこと。

放送大学大学院

２．論文の執筆・作成について

放送大学大学院

①博士論文とは

- 論文のボリューム（論文から書籍へ）

- 修士論文と博士論文の違い（複数の論文を再構成する）

- 論文の基本構成・・・以下の基本構成が複数化する。
  （問題提起・・・目的、背景、問題状況、問題意識、
  先行研究・・・研究の意義、データ資料の収集・実証方法、
  分析・・・仮説、因果関係、結果、質的・量的分析方法
  結論・・・研究結果の意義・検討・今後の課題）

放送大学大学院

②研究計画を立てるにあたって

- 「研究対象」は初めは広く取ることを計画し、問題提起が定まったら、集中的に分析できるように、次第に小さく絞っていくような計画案を立てる。
- 全体の「問題提起」と部分の「問題提起」の両方を明確に持つことができるように計画を立て、どのようなテーマ群で最終的に何を研究するかの全体のストーリー、つまり大きな柱や小さな筋道をはっきりさせる構成の方向性を、計画では暫定的に打ち出すことが必要である。
- 初期段階では、文献検索の方法などを駆使して、絶えず複数の分野にわたる「先行研究」を調べる時間をたっぷりとるように計画する。それぞれの系統の異なる、複数のサーベイ論文まで持っていくことが必要である。
- 「研究方法」はテーマに合わせて、最善の方法を選択し一貫性を保持するように計画する。
- 「分析」の山場が複数の論文のどこに来るのかを、あらかじめ予想しておくことが重要である。
- 余裕を持って、論文の「仕上げ」期間を十分にとることが必要である。

放送大学大学院

３．放送大学における研究指導

放送大学大学院

①研究指導の流れ

第１年次

- オリエンテーション、特論・研究レポートⅠ・研究レポートⅡ、評価
- メジャー・マイナー研究法・研究レポート、評価
- 特定研究・研究指導、プログラム報告会

第２年次

- メジャー・マイナー研究法・研究レポート、評価
- 特定研究・研究指導、プログラム報告会

第３年次

- 特定研究・研究指導、プログラム報告会
- 博士予備論文・審査、本論文・審査、評価

②指導の方法

（1）方法

- 対面指導（個別）
- ゼミナール指導（議論）
- インターネットの活用（メール、Web会議システム）

（2）頻度と場所

- 指導の頻度はどのくらいか
- 指導の場所はどこで行われるか
- 指導教員は誰になるのか

放送大学大学院

③研究指導プロセスでのメリット

- ３年の間に、獲得され蓄積されていく知識・能力が確実に増え、書き言葉としての「論文」に反映されること。
- 知識を理解していくことによって、自分の「人格」が変わっていくことを自覚すること。
- 多様なバックグラウンドを持つ仲間と「交流」し、異なる知識に触れ議論できること。
- 職場の課題など実践的な内容を、職場から離れて研究できること。

4. 最後に

放送大学大学院

博士論文を書く「魅力」

- 好奇心を持って
- 深く理解する喜びを追求し、
- 他者へ伝えたいという気持ちを大切にしてください。
- これらを博士後期課程履修で持続することが大切です。